

特別の教科 道徳（道徳科）

道徳科においては、児童が道徳的価値の理解を自分との関わりで深めるための指導を充実することが課題です。そのため、内容項目を適切に踏まえたねらい及び児童の学習状況を見取るポイントを設定すること、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めることができるよう発問を工夫すること、端末を活用して自身の成長を実感できるよう振り返りを蓄積することが大切です。

I ねらいの明確化や児童の学習状況を見取るポイント

道徳科の目標である、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、学習指導要領で示されている内容項目の概要や指導の要点を踏まえてねらいを明確にするとともに、児童の学習状況を見取るポイントを適切に設定する必要があります。

児童の学習状況を適宜見取り、児童の発言等を価値付けることができるよう、教師が明確な指導の意図をもち、内容項目を踏まえ、適切にねらいを設定するとともに、児童が道徳的価値の理解を自分との関わりで深めている姿について見取るポイントを明確にし、実際の指導の場面で認め、励ますことが大切です。

II 指導計画の改善のポイント

道徳科における1単位時間の指導計画を作成するに当たり、道徳的価値の理解について、自分との関わりで深めることができるよう、教材の特質を踏まえて発問を位置付けるなど、学習指導過程を工夫することが大切です。

児童がねらいとする道徳的価値についての理解を十分に深め、自分自身を振り返ることができるよう、教師は、教材の適切な場面において、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めるための発問を工夫するなどして、児童に自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、自分事として考えを深めさせる必要があります。

教材において、登場人物の心情の変化を示す発言・行動、考えを変えるきっかけとなった出来事などに着目し、発問の流れや展開を工夫したり、児童の発言を想定し、考えた理由や根拠を問い返したりすることにより、道徳的価値の大切さやよさ（価値理解）、道徳的価値を実現することの難しさや人間の弱さ（人間理解）、道徳的価値の多様な捉え方（他者理解）などについて、自分との関わりで考えを深めさせることが大切です。

III 手立ての充実のポイント

学習指導過程の様々な場面で1人1台端末を効果的に活用することにより、ねらいとする道徳的価値について、児童が自分の考えを表現し、他者に分かりやすく伝えたり、これまでの自分の考えと比較して振り返ったりすることができます。

とりわけ道徳科においては、自分で考えたことや気付いたことについて記録したことを端末に蓄積し、自身の学びの振り返りに生かすことにより、学習の前後のつながりや違いを意識することができるようにするなど、効果的に1人1台端末を活用することが考えられます。

児童の学習の過程や成果などの記録を計画的に端末内のワークシートや振り返りシートに蓄積し、1単位時間（導入や終末）や年度途中・年度末などのそれまでの学習を振り返る場面で活用することにより、自分の行動や考えを見直したり、道徳性に係る自身の成長を実感したりできるようにすることが大切です。

〔参考資料〕



【道徳教育アーカイブ】
（文部科学省）



【道徳教育のページ】
（北海道教育委員会）

道徳的価値の理解を自分との関わりで深める指導の充実に向けた指導計画の改善

【小学校第4学年】

<主題名> 「だれに対しても公平に」〔C 公正、公平、社会正義〕

<教材> ひとりぼっちのYちゃん（「道徳4 きみがいちばんひかるとき」光村図書）

<ねらい> 仲間外れにしてしまった友達の思いを知り、自分の行動を省みる「わたし」の姿をとおして、誰に対しても公平に接することの大切さについて考えさせ、分け隔てなく接しようとする心情を育てる。

【児童の学習状況を認め、励ますポイント】

- ねらいとする道徳的価値：誰に対しても分け隔てなく接すること
 - ・道徳的価値のよさや大切さについて考えようとしている。（視点①）
 - ・一つの見方ではなく様々な角度から捉えて考えようとしている。（視点②）
 - ・自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考えようとしている。（視点③）
 - ・授業で学んだ道徳的価値のよさを実感し、これからの自分の生き方に生かそうとしている。（視点④）

【I ねらい及び児童の学習状況を見取るポイントの設定】

内容項目「公正、公平、社会正義」の小学校第4学年の概要や指導の要点を踏まえ、「誰に対しても分け隔てなく接すること」にねらいを焦点化し、児童の学習状況を見取るポイントを明確にしている。

<学習指導過程>

学習過程	●学習活動 ○主な発問（◎中心的な発問） ・児童の反応	・指導上の留意点 ■評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●友だち一人一人を大切にすることはどういうことかについて考える。 ○これまで学習したことを振り返ろう。（「絵はがきと切手」〔友情、信頼〕、「『思いやり』って」〔親切、思いやり〕） ○普段、友だちに対して公平に接していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・みんな同じように接している。 ・あまり気にしていなかった。 ・人によって態度を少し変えていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・端末上の自身の学びの記録を基に、これまでの学習について振り返らせる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ●教材「ひとりぼっちのYちゃん」を読んで考えを发表或ししたり、話し合ったりする。 ○「かわいそう」と思いながら、「わたし」がYちゃんへの意地悪を続けたのはどうしてですか。【人間理解】 <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに嫌われるから。 ・仲のよい人とだけ話そうとしていたから。 ・好き嫌いだけで接し方を変えていたから。 ○「ああ、ごめん。Yちゃんー。」と、涙がこぼれそうになった「わたし」はどんなことを思っていたのでしょうか。【価値理解】 <ul style="list-style-type: none"> ・なんてひどいことをしてしまったのだろう。 ・悪いのは私なのに。 ・どうしたら、仲間外れを止められるだろう。 ◎誰に対しても公平に接することはどうして大切なのか考えて話し合ってみましょう。【他者理解】 <ul style="list-style-type: none"> ・仲間外れをすると、自分も仲間外れにされると思い、止められなくなるから。 ・自分の接し方が、周りの人たちにも伝わって仲間外れなどのいじめにつながるから。 ・相手が嫌な思いをするから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物に共感的に寄り添い、自分との関わりで考えを深めさせる。 ・児童の発言に対し、考えた理由や根拠を問いつ返す。 <人間理解を深める補助発問> 例：Yちゃんがひとりぼっちになっても意地悪を続けたのはなぜだろう？ 例：意地悪をしているときの「わたし」はどんな気持ちだろう？ <価値理解を深める補助発問> 例：「わたしに悪いところがあったら言ってください」と日記に書いたときのYちゃんはどんな気持ちだろう？ 例：他にもYちゃんを嫌う人が出てきたのはなぜだろう？ ■誰に対しても公平に接することのよさや大切さについて、自分との関わりで考えを深めようとしている。 ・児童の発言を認め、励ますことにより、児童が自身の成長を実感できるようにする。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ●学習の振り返りを書く。 ●教師の説話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・端末を活用し、これまでの学習で使用してきたシートに記述させる。

【III 蓄積した記録の活用】

これまでの学習の記録を振り返ることにより、本時のねらいである「公正、公平、社会正義」との相違を確認し、道徳的価値への方向付けを行っている。

【II 教材の活用と発問の工夫】

道徳的価値を実現することの難しさが表れている場面や、登場人物が道徳的価値の大切さに気付いた場面に着目して発問することにより、登場人物の姿を通して、人間理解や価値理解について自分との関わりで考えを深めることができるようにしている。

【II 教材の活用と発問の工夫】

「中心的な発問」とは授業のねらいに深く関わる発問であり、状況に応じて、補助発問や問い返しを行うなど、道徳的価値の理解を深めることができるようにしている。

【III 蓄積した記録の活用】

1人1台端末を活用し、これまでの学習で使用した振り返りシートに振り返りを記述し、授業後には、教師がコメントを付記し、児童の考えを価値付けたり、励ましたりしている。